

地域から

発信



北見

育て冬季スポーツの星

北見工大エリートアカデミーの軌跡

Ⓧ

競技者増へ活動幅広く

「冬季スポーツをする若者が減っている。われわれの研究や活動で、減少スピードを少しでも緩やかにしたい」

冬季スポーツの科学的な研究を通じて、アルペンスキーやカーリングのトップ選手を育成する北見工業大の「エリートアカデミー」で指導する榊井文人教授(59)は、決意を新たにしている。

スキーは半減

全日本スキー連盟に登録するスキー競技者は約7万人(2024年度)、日本カーリング協会には約2500人(同)が登録している。スキーは1



990年代に一時約16万人だった登録者数が半減した。カーリングもロコ・ソラーレの活躍で盛り上がりつつあるが、登録者数は横ばい。榊井教授は「トップアスリートを生むには下の世代への普及、裾野の拡大が欠かせない」と強調する。

JR北見駅前に今年1月24日、長さ10メートル、幅5メートルのカーリング場が登場した。直径約4メートルのハウスを縁取るように、発光ダイオード(LED)が氷に埋め込まれていた。街中でカーリングを楽しむ初のイベント「ピカピカカーリング」。開催中の3日間に家族連れや観光客ら約2200人が、紫色や緑色に浮かび上がったリングクでストーンを投げて楽しんだ。

JR北見駅前の広場に登場した「ピカピカカーリング」の光るリングクを降雪する北見工業大生ら11月24日

主催したのは北見工業大の榊井教授と研究室の学生ら5人。榊井教授の講義の一環で、競技に興味を持ってもらう機会の一つにするために開催した。「カーリングの普及活動もアカデミーの柱」との思いから、アカデミー生も参加した。

地域貢献に力

アカデミー生でロコ・ソラーレ(ロコ・ドラゴン)に所属する4年の前田拓紀さん(22)は「子どもたちが楽しそうにストーンを投げていた。次世代の選手が初めて競技に触れる機会になれば」と願う。イベントは次の冬も開催する予定で、榊井教授は「カーリングを北見の観光資源にして、カーリングシティという印象を付けたい」と話す。

アルペンスキーも地域貢献に力を入れる。アカデミー生が毎冬、北見若松市民スキー場でスキークラブに所属する小中学生に技術や用具について助言などを行っている。スポーツ工学が専門の中里浩介教授(66)は、大会や教室などの開催を模索する。「アカデミーの技術や研究を多くの人に伝えられれば、北見の競技レベル、道内のレベル向上にもつなげられる」と力を込める。

活動の幅を広げているエリートアカデミー。創設者の鈴木聡一郎名誉教授(66)は「今後もさまざまな取り組みを続ける。アスリートだけでなく、冬季スポーツの研究者も出てきてくれたら」と夢を膨らませている。(北見報道部 安沢悠太)

(C) 北海道新聞社 無断転載、複製および頒布は禁止します。